

2. 流域及び河川の概要について

平成 17 年度に策定した利根川水系河川整備基本方針においては、年最大流量と年最大降雨量の経年変化、流量確率による検証、既往洪水による検証により、既定計画（昭和 55 年度に改定した利根川水系工事实施基本計画）のピーク流量（22,000m³/s）は妥当であると判断した。また、沿川の土地利用の高度化など社会的状況の変化に加え、河床の低下などの河川の状況変化等を踏まえて、河道及び洪水調節施設の検討を行った。検討の基本的な考え方として、より早期にかつ確実に水系全体のバランスのとれた治水安全度の向上を図る観点から、掘削等により河道の流下能力や遊水機能の増大を図ることによりできるだけ河道で対応することとし、さらに既設洪水調節施設の再開発による治水機能の向上など既存施設の徹底的な有効活用を図りながら洪水調節施設を整備することとした。その結果、堤防の嵩上げや引堤による社会的影響及び大幅な河道掘削による河川環境の改変や将来河道の維持を考慮すると、現在の河道で処理可能な流量は、基準地点八斗島で 16,500m³/s であり、これを計画高水流量とした。

なお、このたび、利根川においては、ハッ場ダムの検証と並行して、利根川の基本高水の検証を実施した。利根川の基本高水の検証は、国土交通省が自ら行い、その内容は「利根川の基本高水の検証について 平成 23 年 9 月 国土交通省」としてとりまとめ、公表している。また、日本学術会議に学術的な観点からの評価を依頼し、平成 23 年 9 月 1 日に「回答 河川流出モデル・基本高水の検証に関する学術的な評価」を頂いた。さらに、平成 23 年 9 月 5 日に社会資本整備審議会河川分科会において、利根川の基本高水の検証結果等について報告し、討議された。

②烏川

計画高水流量は、神流川等の合流量を合わせ、利根川本川合流点の玉村地点において 8,800m³/s とする。

③江戸川

計画高水流量は、関宿及び松戸において 7,000m³/s とし、篠崎において旧江戸川に 1,000m³/s を分派し、その下流妙典で 6,000m³/s とし、河口まで同一流量とする。

(3) 主要な地点における計画高水位及び計画横断形に係る川幅

利根川、烏川、江戸川の主要な地点における計画高水位及び計画横断形に係る概ねの川幅は表 2-4-2 のとおりとする。

表 2-4-2 主要な地点における計画高水位及び川幅一覧表

河川名	地点名	河口又は合流点からの 距離 (km)	計画高水位 (Y. P. m)	川幅 (m)
利根川	八斗島	河口から 181.5	50.51	1,040
	栗橋	” 130.4	20.97	720
	取手	” 85.3	10.92	1,270
	布川	” 76.5	9.38	280
	佐原	” 41.0	5.17	540
	銚子	” 0.7	2.30	640
烏川	玉村	利根川合流点から 0.0	55.25	630
江戸川	関宿	河口から 58.4	17.62	400
	松戸	” 19.6	8.13	480
	妙典	” 0.1	※ 4.80	400
旧江戸川	篠崎	” 9.1	※ 4.80	200

注) Y. P. : 堀江量水標^{ほりえ}零点高 (T. P. -0.84m)

※ : 計画高潮位